

だから危険な場所だから自衛隊が行く、武力があれば安全を守れる、そんな考え方は間違っています。

少なくともアフガニスタンに閉じ込められ、自衛隊に頼る必要は全くありません。いや、むしろ来てもらうと迷惑です。軍服を着て銃を持った集団が入ってくれば、現地の人たちは警戒します。イラクに自衛隊が派遣されたときの様に、重武装でいかに軍隊を派遣しているというパフォーマンスは、現地の人たちに、私たちまで敵意を抱かれます。自衛隊が丸腰で来るのならば、まだ説得力はあると思います。

こうした安全面だけでなく、軍隊による援助活動には疑問を抱く点が多々あります。それは、本当に地元のための援助なのかということです。たとえば、アフガニスタンで行なわれている道路工事のなかには、米軍の移動をしやすくするために作っていると思えないものがあります。現地の人のためであれば、ともかく人の行き来ができて食料を運べる道でいいわけです。ところが、戦車を通れるような立派な道路があちこちに作られています。現地の人にとって何のありがたみもない。

地元の人々には、名だたる国際支援組織やNGO（非政府組織）にも同じことが言えます。今日生きるための食料に困っている人たちに文房具を配ったり、「ワールドカップの喜びを伝えたい」とサッカー場を作ったりなど、まったく現地の状況を無視しています。もっとひどいのは、干ばつ

で水がなくて困っているのに、自分たちが楽しむためのプールを作った国際援助機関があります。人道援助の象徴のように言われる、誰もが知っている国際的な組織ですよ。これでは響き（ひびき）をかうのも当り前です。

アフガン空爆以降、日本の評価は下がる一方。

自衛隊の海外派遣が拡大してきたことで、私たちの活動にも影響が出ています。

以前は、日本人だからこそ命拾いした、もしくは仕事があまく進んだということが数多くありました。現地の人たちの日本人に対する印象がよかったのです。古くは、日露戦争のことを例にあげる人もいます。極東の小国が当時の超大国ロシアに負けなかった。そのことが彼らに勇気を与え、日本への敬意につながり、代々語り継がれているんです。

それから広島、長崎も有名です。あんなひどい爆弾を落とされて壊滅的な打撃を受けたのに、その後の50年間で経済復興をなし遂げた。そして大国になったにもかかわらず、半世紀の間一度も戦争をしなかった。このことが日本の評価につながっていました。アフガン人一般の日本に対する心証は非常によかったです。ところが、それが湾岸戦争（91年）あたりから変化し始め、アメリカのアフガン空爆（01年）からイラク戦争（03年）へと進む段階で大きく変化しました。アメリカによる戦争を日本政府が積極的に支持し、自衛隊を派遣したことは現地の人たちにも



20年以上、パキスタン、アフガニスタン両国で医療支援活動をしてきた中村さんは近年、「自給自足ができるようにしないといけない」と、アフガン国内での井戸掘りや農業用水路の建設に力を入れている。写真は、掘った井戸にロープをつたって降りる中村さん。写真提供/ベシャワール会

伝わっています。湾岸戦争のころは「無理やりお金を出させられて」という程度に受け止められていました。ところがアフガン空爆以降の日本の行動に「裏切られた」と感じた人が増えたようです。

報道関係者が接触するアフガン市民は、英語が話せる現地のインテリ層や富裕層です。こういう人たちは「援助してくれてありがたい」と優等生的な答えをしますが、大部分の国民である農民は、おそらく対極の意見を持っているでしょう。私も面と向かって言われたことはありませんが、言葉の端々に感じます。

今後は日本人であるがために標的にされたり、仕事の邪魔をされるケ

ースも出てくるでしょう。自衛隊の海外派遣が国際貢献の成功例のように語られていますが、こういう現実があることを知ってほしいですね。

日本の国際貢献、自衛隊の海外派遣は「国益のため」という言い方をしている人がいます。でも、それは「満蒙は日本の生命線」と言っている中国大陸に軍隊を送ったことと、どこが違うのでしょうか。

石油などの資源を確保するために中東の安定が必要だ、だから自衛隊を派遣するのだとなれば、世界中に日本人や日本の企業は進出しているのですから、どの地域も日本の国益にかかわることになります。世界各地で何かがあるたびに自衛隊を派

遣するのでしょうか。

だいたい「国益のため」というのは「見返り」を求めているわけで、人道支援や援助とは本来そんな動機で始めるものではありません。国益が全ての判断基準というのは、丁見の狭い話ですね。

今後、海外への自衛隊派遣が増えれば、いずれ隊員にも被害が出るでしょう。現在、アメリカ軍は志願兵だけでは足りなくて州兵や予備役兵がほとんど動員されています。日本も自衛隊員だけでは足りなくなり、一般人が前線に立つことだって十分ありえるわけです。自衛隊の海外派遣を考えるときには、そういうことにも想像力を働かせてほしいですね。